

「2023 みどりアートパーク オープン・デー」イベント参加報告

「くるくるマルシェ」と「占い・小物販売ブース」で出展しました

気持ちの良い秋晴れとなった10月7日(土)、横浜市緑区文化センターみどりアートパークの「みどりアートパーク オープン・デー」が開催されました。10周年を迎えた今年のオープン・デーのテーマは「すべてのみんなが一緒に生きる(共生共創)」です。

昨年、出展した当法人のマルシェが好評だったということで、今回もお声かけいただき参加しました。「自分の得意分野を生かして、自分も楽しみながら、人も地域社会も楽しくできるといいな」という活動を伝える機会ともなりました。



日時：2023年10月7日(土) 10時~17時

会場：横浜市緑区文化センターみどりアートパーク ホール、ギャラリー、その他

内容：「10周年記念式典 田奈・中山・荏田南中学校吹奏楽部合同チーム〈オープニング演奏〉」「インクルーシブダンスワークショップ「のはらハみどり」ステージパフォーマンス」「SDGsドキュメンタリー映画上映会 DVD版「荒野に希望の灯をともし」」「ミドリン(緑区マスコットキャラ)と遊ぼう」「写真講座参加者による作品展示」「展示会&ワークショップ(神奈川県ユニセフ協会)」など

出展ブース：「マルシェ(NPO法人スーリールファム)」「白山陶器市(県立白山高校)」協力：神奈川県ユニセフ協会、NPO法人スーリールファム、神奈川県立白山高等学校、緑区地域ケアプラザ、緑区民音楽祭実行委員会、NPO法人みんなのダンスフィールド、長津田マールタウン管理組合(順不同)

【「くるくるマルシェ」や占い・小物販売ブースは大盛況】

「くるくるマルシェ」では、主に横浜産加工食品や市内の農家を回って集められた農産物が、長テーブルに並びました。「くるくるマルシェ」は横浜市の地産地消を目指して、当法人が催事や一部地区センターなどで開催しているものです。

この日の農産物は、栗、みかん、ジャガイモでした。大きく丸く膨らんだ栗を見て、「横浜でもこんないい栗がとれるのね!!」という声が多く聞かれました。

加工品は、金沢区の永島農園の干しシイタケなどを使った「DRY delish」の乾燥パスタシリーズで、椎茸のりパスタ、横浜ナポリタンなどが並びました。これは、「農業×福祉×干し野菜研究家」をコンセプトに商品開発から生産までを行い、作られています。お鍋一つで美味しいパスタが完成する人気商品で、「昨年も買って美味しかった」と言って、買っていく方もいました。磯子水取沢の「杉田の梅」製品や、昔ながらの压榨製法を守り続けてきた『岩井』のごま油やラー油、横浜出身の出川哲朗さんの実家『つた金』の元気のりのりシリーズ、乾燥こんにゃく、『横浜屋本舗』の横浜産トマト100%使用『横濱のトマトソース』も目を引きました。他に、『上島珈琲』横浜工場のアイスコーヒーの試飲も好評でした。



コッペパン専門店『パン屋のオヤジ』からは、種類も豊富なコッペパンサンドが昨年に引き続き並びました。衛生的に個包装されて、ふんわりとした手作りパンとサンドされた野菜やお惣菜の彩も美しく、ボリュームもあります。通る人たちから「うわ〜美味しそう!」、「どれがいかな〜」と話が弾む場面もあり、親子連れなど、多くの方にお買い求めいただきました。





また、当法人の会員さんがマルシェの隣で、タロットカード・手相占いと、手作り小物販売も行いました。占いブースでゆったりした雰囲気でお話を聴く方、手作り小物の販売ブースで、美しい布の柄をあれこれ選びながら購入する方など、大勢のご来場がありました。マルシェと合わせて楽しんでいただくことが出来ました。

【会場の様子】



この日は、みどりアートパーク全体のオープン・デーです。ホールでのオープニングでは、近隣中学校合同で吹奏楽部による演奏があり、続いてインクルーシブダンスワークショップのパフォーマンスもあり、会場内は盛り上がりました。

ギャラリーでは、ユニセフが、写真展「学校に戻れない子どもたち」、SDGsルーレット体験、紙芝居・クイズコーナー他で、楽しみながら学ぶ企画を展開しました。ホワイエでは、緑区のキャラクター「ミドリン」との写真撮影会、またバルーンでつくる動物などのプレゼントもあり、小さなお子さんもお喜びでした。エントランスでは白山高校による陶器販売も

行われました。生徒たちが制作した味わい深い大皿、カップ、箸置きを買い求める人が大勢いました。

【SDGsの取り組み紹介～アフガニスタンに緑の大地を作った日本人医師～】

午後から、ホールではSDGsドキュメンタリー映画『荒野に希望の灯をともし』の無料上映がありました。一人の日本人医師 中村哲氏がアフガニスタンの支援に懸命に取り組む姿を記録したものです。冒頭、水も、作物の収穫もなく、飢えによって小さな子供や高齢者が命を落とす姿を目の当たりにした中村医師は、病気の治療を仲間に委ね、用水路の建設を進めました。最初は「どうせすぐにいなくなってしまうのだろう」と言っていた現地の人々が、次第に中村医師を信頼し、どんな困難も乗り越えて共に工事に取り組む様子に、本当の人道支援とは何かを考えさせられました。2019年12月に命を奪われるまで、戦争ではなく平和こそが力になることを、自らの行動で世界に訴え続けた中村医師をたたえ、上映後は大きな拍手が起こりました。

私たち NPO 法人スーリールファムは、今回のイベントでも多くの人たちと交流することができました。これから一緒に『地域を元気にする』活動に参加したいと思う方、また興味がある方はご連絡ください。

NPO 法人スーリールファム 問い合わせ <http://sourirefemme.or.jp/contact/>